

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第225号	氏名	山口 直之
学位審査委員	主査 関根 一郎 副査 江口 勝美 副査 兼松 隆之		
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1. 研究目的の評価 内因性抗菌ペプチドであるデフェンシン(defensins)と炎症性腸疾患(IBD)(潰瘍性大腸炎(UC)、クローン病(CD))との関連性を示唆する報告は未だ少数である。IBD患者の血漿中デフェンシン濃度を測定することにより、デフェンシンとIBDの発症・病態との関連性を探ろうとした研究目的は明瞭である。</p> <p>2. 研究手法に関する評価 IBD群計55例(潰瘍性大腸炎(UC)群:29例・クローン病(CD)群:26例)およびコントロール群:57例を対象とし、radioimmunoassay(RIA)を用いて、血漿中α-デフェンシン濃度(human neutrophil peptides (HNPs) 1-3)およびβ-デフェンシン濃度(human β-defensin (HBD)-2)を測定した、その研究手法は妥当であった。</p> <p>3. 結果考察の評価 IBD群における血中HNP1-3レベルはコントロール群と比較し有意に高値を示したが、HBD-2レベルは有意差を認めなかった。CD群において血中HNP1-3濃度は、Crohn's disease activity index(CDAI)、末梢血中白血球数、血清CRP値、TNF-αレベルと有意な相関関係を認めた。これらの結果は、IBDとデフェンシンの関連を明らかにしたものと評価できる。</p> <p>以上のように本論文は消化管学の発展に貢献するところ大であり、審査委員は全員一致で博士(医学)の学位に値するものと判断した。</p>			